

# 四国・西のゲートウェイ 大洲・八幡浜自動車道

大洲・八幡浜自動車道とは

## 愛媛県における高速道路ネットワークの「3つのミッシングリンク」の1つ

「大洲・八幡浜自動車道」は、大洲市北只から八幡浜市保内町喜木を結ぶ約14kmの地域高規格道路です。平成25年3月に八幡浜市大平～保内町喜木間の名坂道路2.3kmが開通し地域の活性化に貢献しています。

しかしながら、大洲市北只から八幡浜市大平までの約11kmの区間が未開通であり、「四国8の字ネットワーク(津島岩松IC以南)」「今治小松自動車道(今治IC～今治湯ノ浦IC)」とともに、愛媛県における高速道路ネットワークの「3つのミッシングリンク」の1つとなっています。



## 「地方創生の道」としての期待、「命の道」確保への期待

「大洲・八幡浜自動車道」は、地域産業の活性化・観光の振興など地方創生を支援する道として早期整備が望まれています。また、大規模災害時の緊急輸送や広域避難のほか、広域救急医療体制における緊急搬送にも寄与するなど、「命の道」の確保につながると大きく期待されています。

# 大洲・八幡浜自動車道



### 整備効果 ① 新たな国土軸の形成

平成28年4月に東九州自動車道(北九州～宮崎間)が開通するなど、フェリー航路と合わせて九州～四国～京阪神を結ぶ「新たな国土軸」の形成が加速しつつあります。本道路の整備によって、移動距離・移動時間の短縮が図られ、さらなる観光客の増加や、物流面での競争力強化が期待されます。

【各県庁～次田IC間の移動時間(運転距離)】

起点(県庁)	九州(北九州)	四国(宇治)
大分	約8.3時間(約660km)	約7.5時間(約450km)
宮崎	約10.8時間(約850km)	約9.8時間(約630km)
鹿児島	約11.0時間(約880km)	約11.7時間(約780km)

注:「移動時間」はフェリー乗船時間を含むが、「運転距離」はフェリー乗船区間を含まない。



### 整備効果 ② 緊急輸送・広域避難の円滑化

今後30年間で70%程度の確率で発生すると予測されている南海トラフ地震による大規模災害が発生した場合にも、円滑な緊急輸送や迅速な支援が可能になります。また、万が一、伊方発電所で事故が発生した場合においても、迅速な広域避難・救援に重要な役割を果たします。



### 整備効果 ③ 救急搬送の時間短縮

八幡浜・大洲圏での二次救急医療機関への搬送時間短縮や、四国8の字ネットワークとの接続によって宇和島や松山方面の三次救急医療機関への搬送時間が短縮されるなど、救命率の向上が期待されます。

